



ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2025年12月

販促・魅力発信



三陸・常磐もの海の幸せフェア

宮城県内の飲食店とコラボし、三陸・常磐地域の海の幸メニューを期間限定で提供する①飲食店フェアと、生産者と飲食店をお繋ぎし、食材に秘められたストーリーを知るため②産地ツアーを実施し、三陸・常磐地域の水産品・水産加工品の魅力を発信。



①飲食店フェア

- 宮城県内の飲食店とコラボし、三陸・常磐ものの海の幸メニューを期間限定で展開。各店の嗜好を凝らした逸品を多くの消費者の皆様に楽しんでいただいた。
- 飲食店を通じて、消費者が産地や水産物の魅力を実感する機会を創出し、三陸・常磐ものの消費を促進。
- フェア期間：10月15日(水)～12月14日(日)
開催店舗：宮城県内の136店舗の飲食店

提供メニューの例



刺身の「枊盛」

メカジキのカマ煮定食

生牡蠣 / カキフライ

- 飲食店関係者からの声：「改めて三陸産水産物のすばらしさ・品質の高さを知ることができた」「ぜひ今後もこういった消費喚起のイベントをしてほしい」
- 消費者からの声：「おいしい」「牡蠣の出荷が遅れているという話もあったが食べられてよかった」「普段家庭では食べることが少ないものもあり、こういった機会に飲食店で食べられてよかった」

②産地ツアー

- 飲食店フェア参加の飲食店関係者を対象に、気仙沼市魚市場にて、秋刀魚やメカジキ等、旬の魚の水揚げを見学。その後、市内水産加工会社の工場にて、原料加工の様子を視察。
- 生産現場や加工現場との交流を通じ、三陸産水産物の素晴らしさを改めて知る機会を創出。飲食店と生産者が交流することで、より深い理解と共感が消費者にも伝わることを期待。
- ツアー実施日：令和7年11月27日(木)

ツアーの様子



気仙沼市魚市場では競りの様子等を見学

水産加工会社を視察

参加した飲食店関係者からの声：

「産地におけるこだわりを知ることができて良かった」「三陸産水産物の良さを改めて知ることができた」「三陸の水産加工会社の加工技術が素晴らしかった」

- 11月29日（土）、相馬市の相馬双葉漁業協同組合（相双漁協）磯部水産加工施設にて、**相双漁協のイベント「磯盛（磯部水産加工施設・直売所を俺ら青壯年部で盛り上げつべ）」**が開催。相双機構も出展を支援。
- 今回のイベントは、相双漁協の新鮮な水産物の加工・直売を担う磯部水産加工施設をお客様にさらに知ってもらい盛り上げるために、相双漁協の各地区の青壯年部が集まり実施。当日は、**漁師の賄い汁対決（各地区の青壯年部が、それぞれの地区の特産物を用いた賄い汁を販売。お客様の投票によりグランプリを決定）**、**相馬産魚料理の振る舞い、ホッキ貝剥き体験等のワークショップ**などが行われた。
- 当日は多くのお客様が来場。「漁師の賄い汁対決」では激戦の末、磯部地区の「ホッキのすまし汁」がグランプリに輝いた。また振る舞い（あんこうの唐揚げ、しらす丼）やホッキ貝剥き体験なども好評だった。

「磯盛（磯部水産加工施設・直売所を俺ら青壯年部で盛り上げつべ）」



漁師の賄い汁対決で優勝した磯部地区の表彰
(左下：グランプリの「ホッキのすまし汁」)



相馬産魚介類の振る舞い



ホッキ貝剥き体験

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ふくしま」の取り組みの一環として、11月28日～30日の3日間、日比谷公園内にて開催された日本最大級の漁色イベント「SAKANA&JAPAN FESTIVAL2025」と連携し、「常磐もの」をはじめとした福島県産水産品のPRイベント「発見！ふくしまお魚まつり in 日比谷公園」を開催。併せて北海道・三陸の水産品をPRする「食べて応援！ニッポンの幸」エリアも開設し、ふくしま全部のせ丼、宮城県産蒸し牡蠣などのメニューを計約24,500食販売した。

発見！ふくしまお魚まつり in 日比谷公園

■日程：11月28日（金）～11月30日（日）

■場所：日比谷公園内 にれのき広場～芝生広場



理解釀成



- ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示するページについて、Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

1 ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

2 トリチウムって何？

3 なぜALPS処理水を
処分しなければ
ならないの？

4 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？

5 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

Twitter Facebook Line Email

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品安全上の問題は生じません。

さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※7月10日に採取を行ったALPS処理水 (K4-Aタンク)
※基準：トリチウム以外の告示濃度比約1未満

放出完了した水

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

※12月22日に採取を行ったALPS処理水 (K4-Bタンク)
※基準：トリチウム以外の告示濃度比約1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態

異常なし

※最新の各機関での分析結果をもとにしています

凡例

○ 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示

△ 「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。

これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000Bq/LやWHO飲料水基準10,000Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

周辺の
海の状況は
どうなっているの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

海水や魚は
大丈夫なの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら



■ 「ALPS 処理水について知りたい5つのこと」をそれぞれ 1 分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1 分程度でわかりやすく解説する動画



① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

② トリチウムって何？

③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？



④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？



⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 12月3日、第14回日英原子力年次対話が英国マンチェスターにおいてハイブリット形式で開催され、日本側から松本恭典外務省軍縮不拡散・科学部審議官が、英国側からクリス・ヘファー・エネルギー安全保障・ネットゼロ省原子力・インフラ・原子力発電・インフラ・廃炉局長が、共同議長を務めました。
- 今次対話では、「原子力安全・規制」、「パブリック・コミュニケーション」、「研究開発」、「**廃止措置・廃棄物管理・環境回復**」、「**ジョンエネルギー政策**」、「**原子力政策**」に関する**両国の取組について意見交換**が行われました。
- 今次対話での意見交換を踏まえ、原子力の幅広い分野における更なる日英間の協力強化が期待されます。

第14回日英原子力年次対話（結果概要）

セッション4：廃止措置、廃棄物管理、環境回復 ※ALPS処理水の放出に関する部分を抜粋

経済産業省は、福島第一原子力発電所の廃炉に関する最近の進展について発表し、福島第一原子力発電所に関連する英国との既存及び潜在的な協力について共有した。

経済産業省はまた、**福島第一原子力発電所からの多核種除去設備（ALPS）処理水の放出について英國に最新情報を提供了**。経済産業省の説明に続き、外務省は、国際原子力機関（IAEA）によるモニタリングとレビューを通じた安全性を確認するための国際的な取り組みを強調した。**英國は、ALPS処理水の放出に関する科学的根拠と、この問題における日本のIAEAとの協力を改めて支持した。**英國は、福島第一原子力発電所から放出が計画されているトリチウムのレベルをはるかに上回る高濃度のトリチウムが、英國及び世界中で、安全に放出されている長年の実績があることに留意し、また、同サイト内により危険度の高い区域の廃炉に注力することの重要性に留意した。

【外務省】 第14回日英原子力年次対話の開催

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/index.html>

- 12月5日（金）、**IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングの一環として、IAEA関係者及び第三国分析機関の専門家が来日し、試料の採取が行われました。**
- **今回の追加的モニタリング**は、2024年9月に我が国とIAEAとの間で、IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングを実施することで一致したことを受け、2024年10月、2025年2月、4月、6月、9月に続き、**6回目として実施**されたものです。
- 今回の追加的モニタリングでは、東京電力福島第一原子力発電所構内において、**IAEA関係者及び韓国、スイス連邦、中国、ロシア連邦の分析機関の専門家が、海洋放出前の海水希釈後のALPS処理水を採取**しました。追加的モニタリングの一環として海水希釈後のALPS処理水を採水するのは、2025年4月に続き2回目です。
- 経済産業省は、今後ともIAEAと連携し、国際社会に対して透明性高く情報提供を行っていくとともに、ALPS処理水の海洋放出の安全性について、国内外の一層の理解を醸成していくことに努めています。

【経済産業省】 国際原子力機関（IAEA）の枠組みの下での追加的モニタリングの一環として、東京電力福島第一原子力発電所構内において、海水希釈後のALPS処理水の採取が行われました

<https://www.meti.go.jp/press/2025/12/20251205002/20251205002.html>

【外務省】 ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの実施（結果）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03062.html



- 2025年12月15日から19日にかけて、IAEA（国際原子力機関）職員及び国際専門家からなるIAEAタスクフォースが来日し、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビューを行いました。
- 経済産業省と東京電力から、2024年12月～2025年12月のALPS処理水の放出実績や海洋放出開始以降の海域モニタリングの実績等に関する情報提供、IAEA国際安全基準に基づく海洋放出開始後の取組状況について説明を行い、IAEAタスクフォースとの間で議論を行いました。



IAEAタスクフォース
(日本側との議論)



カルーソ調整官
(IAEAタスクフォース団長)

【経済産業省】 IAEAタスクフォースにより、海洋放出開始後5回目となるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビューミッションが行われました
<https://www.meti.go.jp/press/2025/12/20251219001/20251219001.html>

【外務省】 東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出に関するレビューのためのIAEA職員及び国際専門家の訪日（結果）
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03139.html

- 12月17日、IAEAタスクフォースは、東京電力福島第一原子力発電所を訪問し、東京電力から現地の最新状況について説明を受けるとともに、ALPS処理水移送建屋、放水立坑をはじめとするALPS処理水の海洋放出関連設備、2025年度中に解体開始予定のJ8エリアのタンク及びすでにタンク解体が完了したJ9エリアの現場確認を行いました。加えて、IAEAタスクフォースは、東京電力の化学分析棟、IAEA福島ALPSラボラトリーといったALPS処理水の測定や分析を行う施設の現場確認を行いました。



ALPS処理水移送建屋



放水立坑



J8・J9エリア



東京電力・化学分析棟



IAEA福島ALPSラボラトリー

- IAEAは2025年12月20日に、**Japan Continues to Meet International Safety Standards in Discharge of ALPS-Treated Water, IAEA Task Force Confirms**との件名で、**プレスリリース**を実施しております。

IAEAプレスリリース（一部抜粋）

As the main conclusion, the **Task Force did not identify any inconsistencies with the requirements of relevant international safety standards**, reaffirming the conclusions of the Task Force's safety review as outlined in the Comprehensive Report of 4 July 2023.

（※経産省仮訳）主な結論として、タスクフォースにより、関連する国際安全基準の要求事項と合致しないかなる点も確認されず、2023年7月4日公表の「包括報告書」に記載された安全性レビューの結論を再確認した。

【IAEA】 Japan Continues to Meet International Safety Standards in Discharge of ALPS-Treated Water, IAEA Task Force Confirms
<https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/japan-continues-to-meet-international-safety-standards-in-discharge-of-alps-treated-water-iaea-task-force-confirms>

安全確保



東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺4地点毎日、その他6地点で週2回（放出期間中）、放水口周辺4地点週1回、その他6地点で月1回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約4km、②放水口の南南東へ約5kmの**2地点で、週4回迅速分析を実施**
(放出のない期間は週1回)

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍3地点で期間中2回、その他沿岸20地点で期間中1回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



- 2022年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。
- 本年12月は2回掲載しており、今後も月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：1号機原子炉建屋大型カバー設置工事の屋根工事開始）

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ（2025年12月）

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/㍑）を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

エリア	海水の測定結果【単位：ベクレル/㍑】 (2025年11月1日～11月末までに得られた測定結果の最大値)	【参考】トリチウム濃度の比較	
		3km範囲内	20km範囲内
トリチウム （迅速測定）	43	検出せず(<0.9)	検出せず(<0.98)
セシウム134 ¹²	1.6	検出せず(<0.0014)	検出せず(<0.0028)
セシウム137 ¹²	0.021		

【この右側の値は検出不能限、検出下限を下回った場合は、検出せずと記載】
①：トリチウムの検出下限値を1ベクレルあたり10ベクレル程度とし、測定時間は相場として30分を想定してます。
②：福島県周辺海における過去の測定範囲は、セシウム134:0.00005ベクレル/㍑～セシウム137:0.00028ベクレル/㍑～0.45ベクレル/㍑(11月現在)の範囲を想定してます。

包括的海域モニタリング閲覧システム（OMS）

当社が測定した海水や海底物の放射性物質濃度に、
有意な変動は確認されていません。
詳細は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/monitoring/>

QRコード

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.52

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「底吹・汚染水・処理水対策」の
東組みについてお知らせします。「底吹と底がの両立」に向けて、底吹を安全かつ省実に進めてまいります。

2025年11月7日より、1号機原子炉建屋上部を覆う「大型カバー設置工事の屋根工事」を開始しました。

▶1号機の使用済燃料プールからの燃料（392体）取り出しに向けて、放射性物質を含むダストが周辺へ飛散しないよう、原子炉建屋上部を覆う「大型カバー設置工事」を進めています。
▶大型カバーの屋根は、発電所構外で各ブロックとして組み立てが行われ、1ブロック毎（長さ約11～14m、重さ約38t～約103t）に運搬架台を乗せた特殊車両に積み込みます。
▶発電所構内に運搬した屋根ブロックは、大型クレーンを使って吊り上げ、原子炉建屋上部へ設置します。今後、使用済燃料プールからの燃料を取り出すための設備等を原子炉建屋内に搬入するため、
大型カバーの中間は可動式となっています。
▶引き続き、安全を最優先に作業を進めていきます。

1号機大型カバー屋根設置中の様子

大型カバー設置完了イメージ

可動屋根を特殊車両に積載している様子

工事の進捗状況は
「福島第一原子力発電所
ライブカメラ」で
確認できます。

可燃性物や長尺や幅広の大型貨物の輸送が
可能な、専用の特殊車両である特殊大型車両
(車幅約8m、長さ約16m)。

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー（福

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字北字北22

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.